

公共交通分野における オープンデータ推進に関する検討会資料



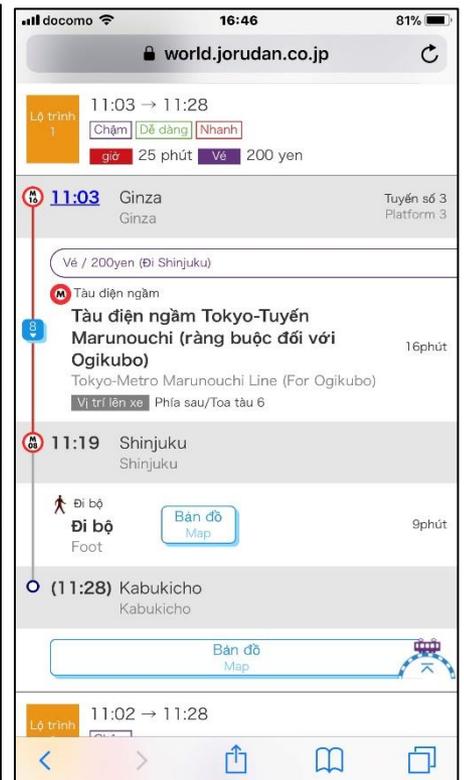
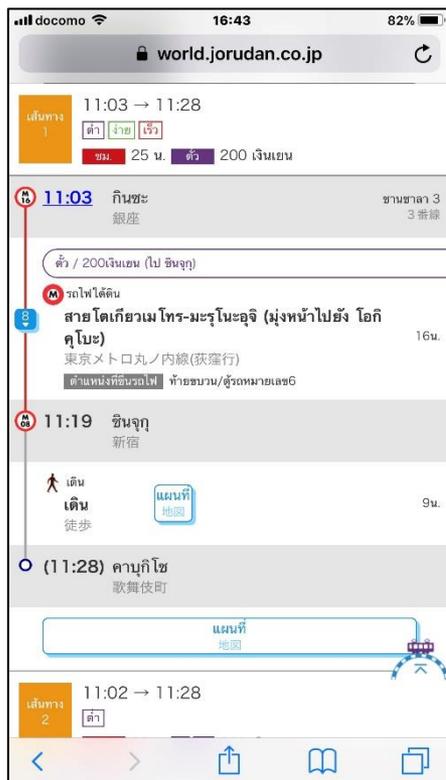
ジョルダン 乗換案内サービスについて

2017年11月27日

「Japan Transit Planner」 Web版

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、機能拡張中

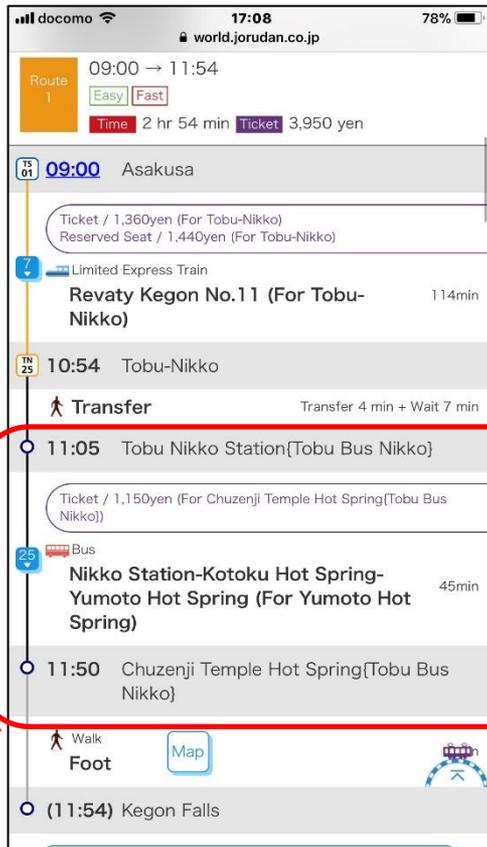
- 日本語・英語・中国語（簡体・繁体）・韓国語に加え、タイ語・ベトナム語・インドネシア語での検索も対応
- 主要観光スポットを直接目的地に設定可能に



路線バスのサポート会社数650社以上。航路サポートも拡大

日本人にも、外国人にも、日本の津々浦々までの公共交通案内を提供

- 多言語でも観光地を中心に180社以上の路線バスをサポート拡張中
- 新規に、バスのりばのポール番号と地図も東京エリアよりカバー開始



日光の路線バスも多言語でサポート



バスのりばを案内



バス停までのルート案内

バリアフリー対応駅構内ナビゲーション

複数の路線が交わる駅においては、駅が多層化され複雑となっており、乗換をする際に、現状の駅構内図だけでは、スムーズなナビゲーションするために、従来の構内図とは見せ方を変え、ホームからホームへの移動のための新しい地図の作成を交通エコロジーモビリティ財団の調査研究の一環として、開発を進めております。

■基本コンセプト

乗換マップは、以下のコンセプトでデザイン、画面設計を行いました。

スマートフォンで見ることを前提とする：縦長画面、表示領域狭

ホームからホームへの「乗換」のわかりやすさに立つ：「改札中心」ではない表現

デジタルならではの表現を検討する：拡大縮小、移動、レイヤ管理など

GPSなどのテクノロジー、正確な図面を必須としない：導入の簡便さ

■デザイン上の特徴

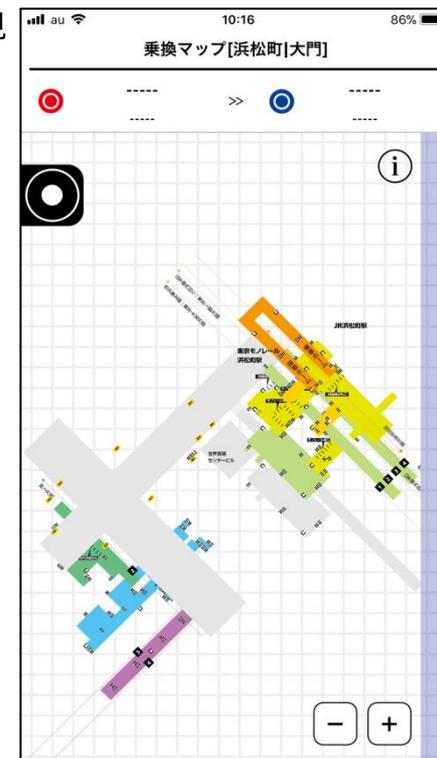
基本コンセプトに基づきデザインした結果、以下のような特徴を備えております。

各階の階層をレイヤとして扱い、多層を表現。

スマホならではの操作、表現

特徴的となる地点には、「ビューポイント」を設置。

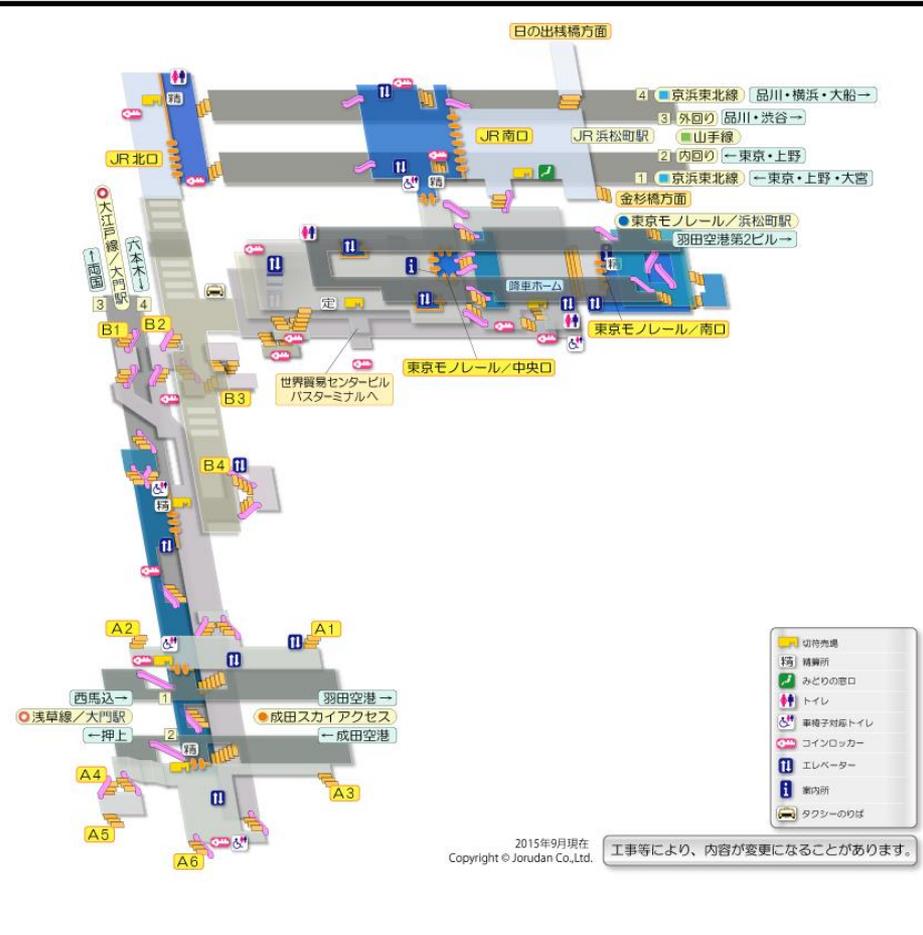
見やすいアイコン



乗換案内 駅構内図例 浜松町・大門駅

乗換案内 現在の駅構内図

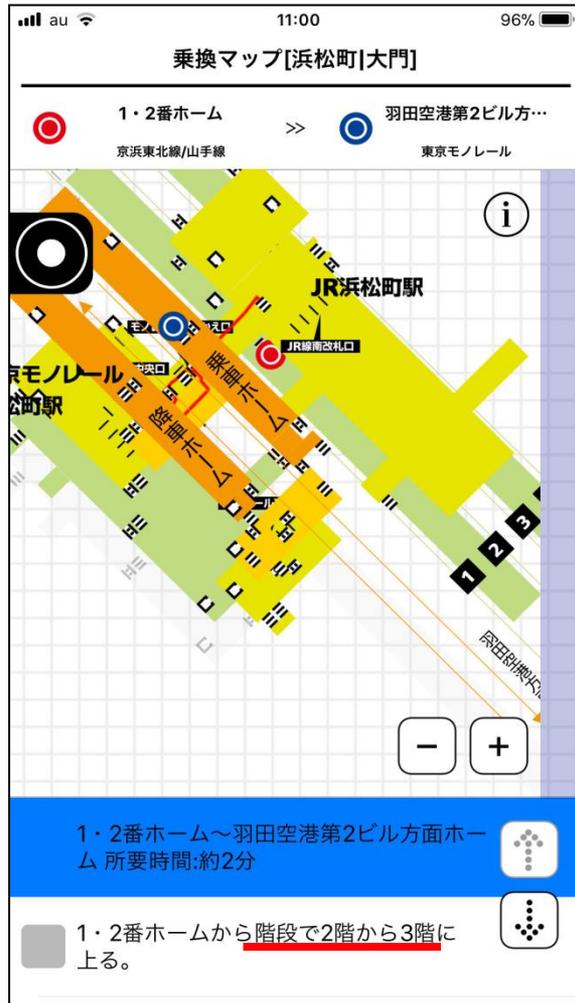
作成した駅構内図



アプリの概要

山手線1・2番線 ➡ モノレール羽田空港行き

徒歩ルート



車いすルート

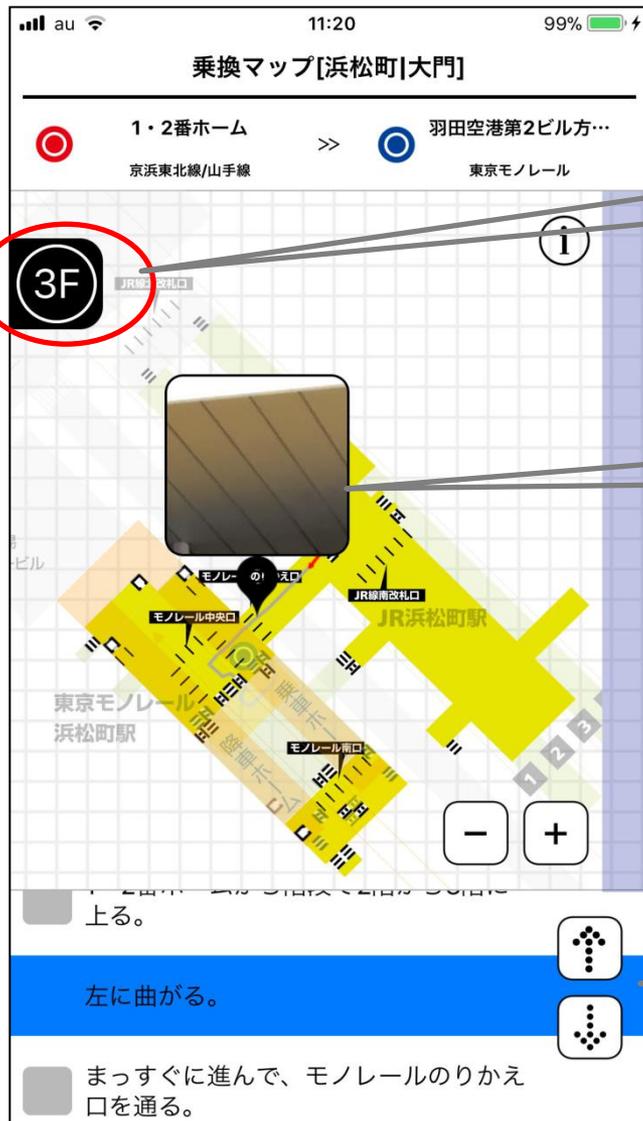


ベビーカートルート



徒歩ルートは階段を使い、車いす、ベビーカーはエレベータを利用する経路に変更される

アプリの機能

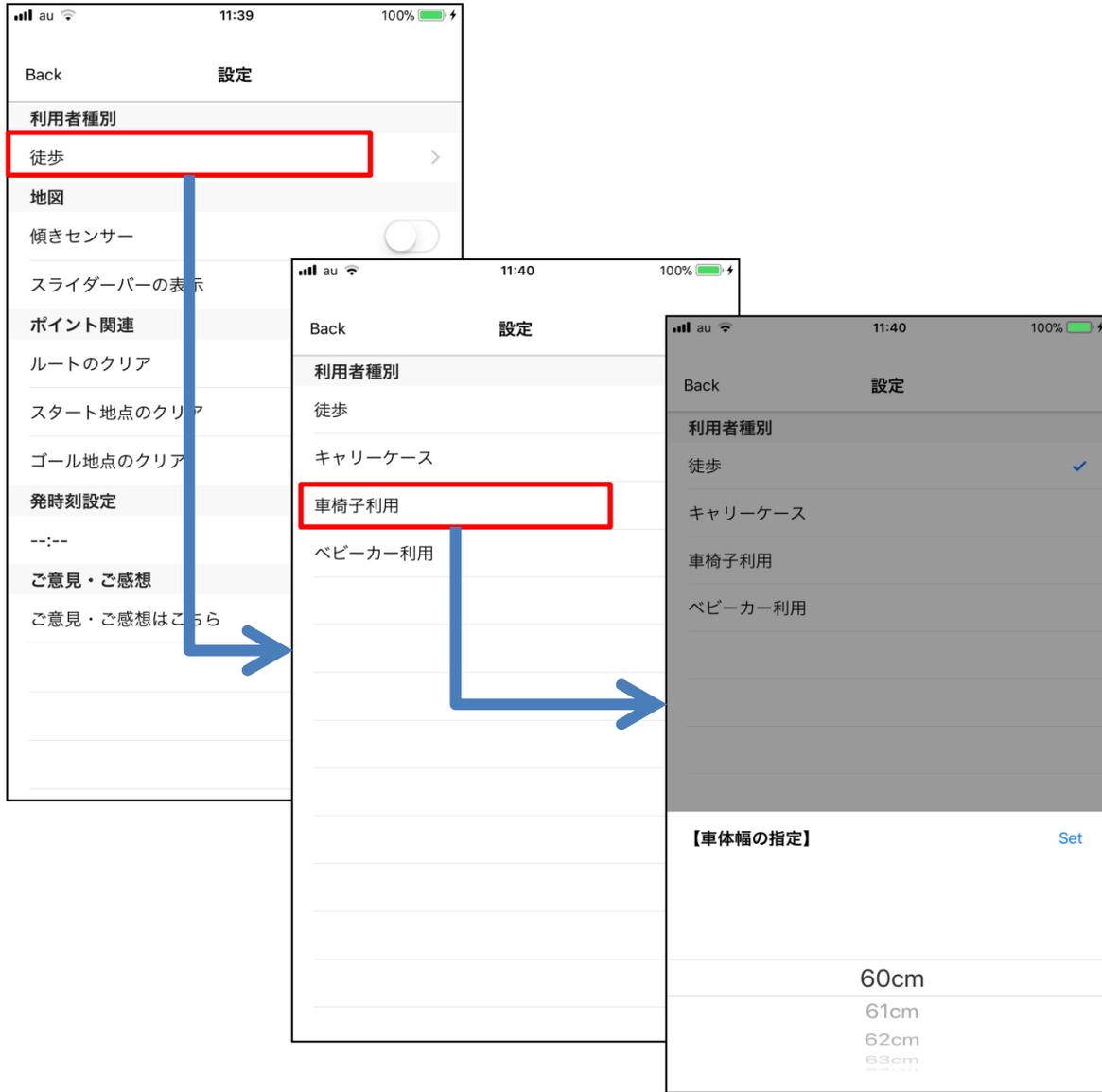


順路テキストに合わせて、フロア移動

目印となる写真にて位置を確認

GPS等を使用していないため、順路テキストを確認しながら進んでいただき、ユーザー自身に位置確認をしていただきます。

利用者種別設定



出発地・目的地設定



1. 構内の移動に関する施設情報

施設の位置情報及び情報が必要となります。

改札: 有人・無人、自動化有無、幅員、IC専用改札口、車いす対応改札有無、運営時間、出入専用フラグ
エレベータ: ドアの向き(タイプ)、乗員人数(大きさ、ドア幅の企画サイズがわかる)、運行時間
エスカレータ・動く歩道: 向き・運行時間、速度
スロープ: 手すり有無
プラットフォーム: 幅員、形態(島式、相対式)、柱有無、ベンチ・休憩所有無、ホームドア
構内踏切

2. 移動経路情報

事業者推奨ルート(ワンルート)
駅ビル・周辺ビル内移動ルート

3. 障害

段差: 高さ
階段: 高さ・段数
勾配

4. トイレ

多目的トイレ: 対応種別(オストメイト、ベビーベッドなど)
一般トイレ: トイレ内段差(高さ・段数)、和式・洋式、個数

5. 工事・メンテナンス情報

構内工事: 予定日時、場所(箇所)、
エレベータ・エスカレータ: 更新、メンテナンスの予定日時、場所(箇所)